



松屋叢考

三樹考

六三



三三

15
1405
1



三樹考

目録

香木ノ常葉香樹ノ徳名 一丁右下

樹ノ木ノ厚ノ徳名 一丁右下

樹ノ天竺ノ樹ノ徳名 一丁右

樹ノ木ノ名 一丁左

樹ノ木ノ名 一丁左

三樹考
目録
一丁右下
一丁右
一丁左
一丁左

門 45
號 1405
卷 1

三樹考

目錄

賢木ハ常葉香樹の總名
サカキ トコバノカホルキ スベナ 一丁右以下

桂ハ檉木犀科の總名
カウラ ヲカクモ モクセイ 一丁右以下

檉ハ天竺桂の類の總名
ヲカクモ ノカヅラ タクヒ 一丁右

真木の名義
マキ ナノコノロ 一丁左

披ハ今ハ高野披
ヒキ イハ カウヤヒキ 一丁左

三樹考目錄

昭和四年二月六日
高田早苗氏贈

高田早苗氏藏

本居宣長三本二目金

五百津真賢木 二丁右

湯津楓 ユ ツ カツラ ニ丁右

伊知佐加紀 二丁右

嚴イツカシ櫃
二丁右

撞ツキ賢木サカキ 二丁左

神樹サカキ 榊サカキ 柗サカキ 杜サカキ 龍眼木サカキ など
シゴロ 字義 二丁左

合字
二丁左

賢木代名義 三丁右

佐と以語に五種の差別
三丁以下

神シの香カ
四丁右

柱名義 カツラ 四丁左

橡ツルハミノ名義 四丁左

玉ハ寶の回小
四丁左

楠クスノキ此名義 四丁左

櫛シキミれ名義 四丁左

酒サケと久之クシとシ義 四丁左

藥クスリれ名義 五丁右

惡臭美香に通カホリしリ加保利カホリとシ 五丁右

屎クワれ名義 五丁右

廁カハヤの名義 五丁右

みうミウとやうヤウと 五丁右

神事カンワサに用モキフるサカキ神カミは多くハフカク櫛シなるナリの考 五丁左

太玉串フトタマグシ 五丁左

玉タマとシ語コトハ六種ムクサの差別ケギン 六丁右以下

柏カシハれ名義 七丁右以下

かカと葉ハ 七丁右

神ヒモロギ離ロギのハヒモロギ脈マキの名義 七丁左

櫛フカクれ考カウカヘ 八丁左

柱 ノカッラ 九丁右以下

木犀 フカヅラ 九丁右以下

多夫れ木 クブ 九丁右以下

紫葛 クミヅラ 十丁右

古く子と語通し例 コトバカヨ 十丁左

賀茂祭に用る桂 カモ 十丁右

とと海木 モナフ 十丁左

大嘗會に用る榊 タイジャウ 十四丁左

玉くーの葉 モナフ 十五丁右

鵲の草潜 モズ 十五丁右

下總香取郡神崎れナンジャモンジャの本 シモンフサノカドリノネリカウサキ 十五丁左

日向薩摩れどより出る廣心樹 ヒタガサツク 十五丁左以下

鈴子三種の差別 ヒサカキ 十六丁左以下

比と云語意 ヒトノコノロ 十七丁右以下

詞林采要抄

十卷 寫本
藤澤山由阿

万葉觀之落葉

三卷
荒木田久老

日本紀竟宴歌

二卷
寫本

神樂歌

一卷

古今集

廿卷

僻案抄

三卷
定家

古今集抄

廿卷
寫本

古今采雅抄

廿卷
飛鳥井雅親

玉傳深秘

一卷
寫本

古今三木三鳥一草傳

一卷
寫本

續古今集

廿卷

紀友則集

一卷

藤原兼輔集

一卷

藤原清正集

一卷

藤原光経集

一卷

和泉式部集

五卷

散木奇歌集

十卷
源俊賴

亞槐集

二卷
飛鳥井雅親

太神宮二所神祇百首

一卷
度會元長

空穗物語

廿卷

源氏物語

五十四卷

枕草子春曙抄

十卷

狹衣草子

四卷

今昔物語

廿九卷 舊本
源隆国

新撰字鏡

一卷
昌住法師

倭名類聚抄

廿卷
源順

下學集

二卷

本草倭名 廿卷 深江輔仁

大倭本草 十六卷 貝原篤信

倭漢三才圖會 百五卷 寺嶋良安

物類称呼 五卷 越谷秀真

本草啓蒙 四十八卷 小野蘭山

宗碩佐野渡注釋 一卷 高田清年

弓八幡 一卷 二百廿番謡

奧義抄 三卷 藤原清輔

袖中抄 廿卷 顯昭法師

歌林撲楸 卅卷 松永貞徳

冠辭考 十卷 賀茂真淵

倭訓栞 卅六卷 谷川士清

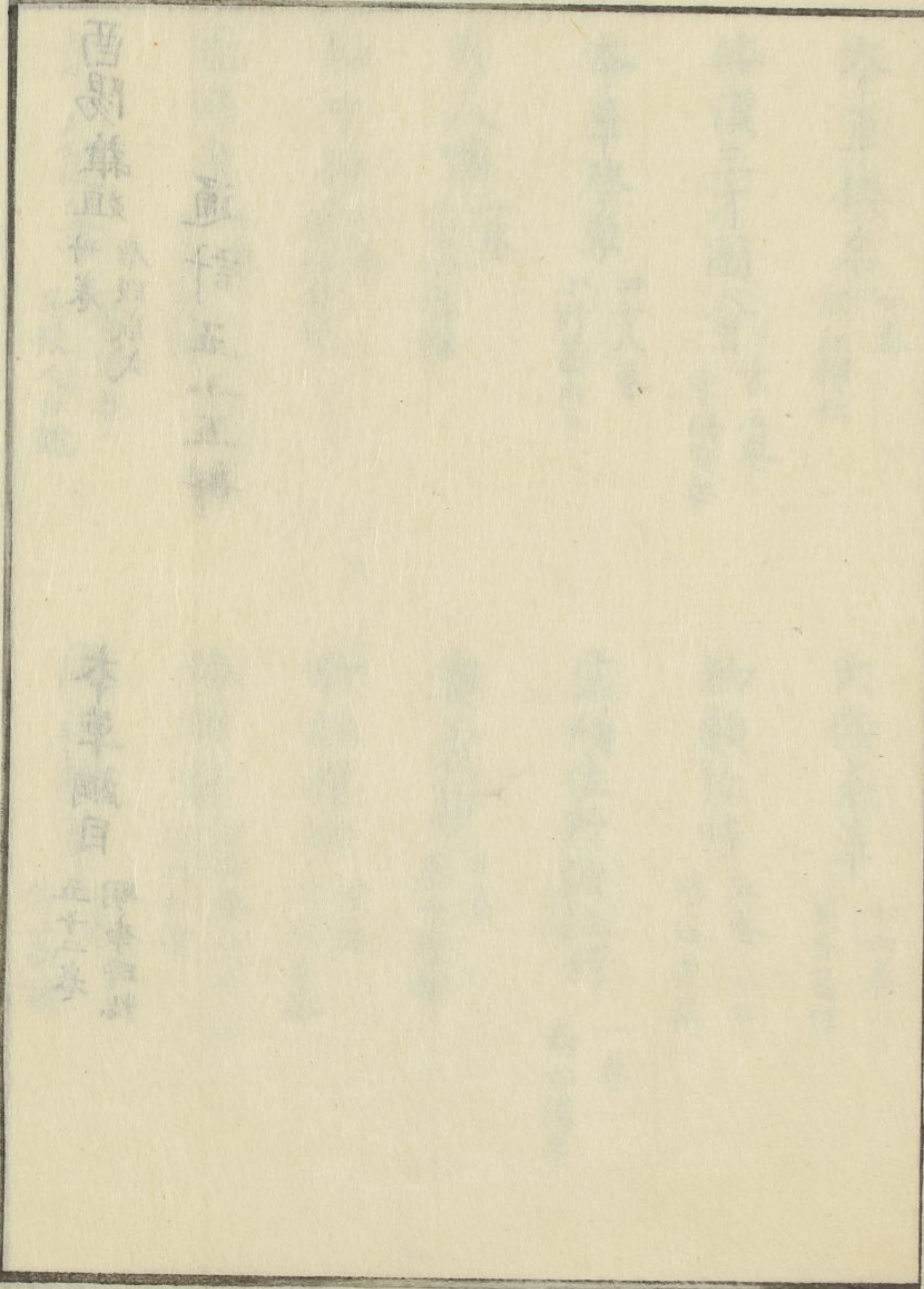
静山隨筆 一卷 寫本 尾張人白詭

閑田耕筆 四卷 伴蒿溪

酉陽雜俎 卅卷 唐段成式

本草綱目 五十二卷 明李時珍

通計五十五部



神桂標屬指掌圖

○賢木 サカキ 字或作神樹或樹神和旋杜龍眼木等按是常葉香木之通名也

加都良 カツラ 字或作挂楓栢香木杜樹等標木屏之總名也

楠 クスノキ 漢字樟或作栢或作香樟本朝古來誤用標樟楠等字比桂樹則殊有臭香故名臭之木也

檣 シキミ 漢名莽草本朝有二種一稱志支美一稱深山志支美

廣心樹 ヲカダ 木蘭之屬日向薩摩等國人呼乎加多乃蓋漢名廣心樹也

櫪スダキ 桂屬之有實者。予カハ小香也。多タ石謂實之同形也。

木犀モクセイ 桂之無實者故稱男桂也。

久須多夫クヌタフ 本朝桂中之上品。和名抄所謂女加豆良是也。漢名天竺桂。亦丹陽木。伊豆國方言古我多比。此中一種有大葉者。呼タタヒ大多比。

大多比オホタビ 天竺桂之屬。葉大故呼タタヒ大多比。其品劣於久須多夫。勝於白多夫者。

志呂多夫シロタフ 女加豆良之下品者也。漢名同久須多夫。伊豆方言阿アカ多比。按白多夫者依葉裏有白毛名焉。阿アカ多比者依其亦實之名也。

○ 杧シカキ 和名抄杧。漢語抄云比佐ヒサ加木カキ云々。按比佐ヒサ加木カキ者非真神之謂。比者下芳之稱。依其無香氣也。

佐加木サカキ 俗稱左加木或也。左加木サカキ天下神官。誤用於神事者也。其狀類于水木犀而有細實焉。

比佐加木ヒサカキ 俗亦呼比佐ヒサ加木カキ。西國人呼ヒサカキ小柴。武藏人呼ヒサカキ山左加木サカキ。左加木サカキ之下品者也。

比左々木ヒササキ 比佐加木ヒサカキ之屬。叢生之小樹也。其嫩葉鮮紅色可玩焉。

[illegible]



大多比



志呂多夫



野營貝

手加多万



手加太万



一、出於薩隅日之地、手加太万、真苗以
 伊勢貞丈、公羽手澤、本寫之

高田清年



楠





榕

吳昌碩印

深山志支美



吳昌碩印

佐加木
或也万佐加木



比佐加木
或小柴





三樹考

東都

源與清著

今三樹 サンジユ

ハ賢木ハ桂楠檣廣心樹

總名。カ^{スベナ}ロ^カ

ツ
豆 良 乃 士
ラ
ノ
キ

六 檣木屋

スベナヲタタキメカヅラタタヒ
總名榲ハ天竺桂の類也

總スベ名ナなれガ

三種ミクサ

説セとタちタるタふタいタふ

○ 賢木 廿力キ

六香 カウバシ

トキハギ
常葉木

○常葉木なるより
ハ源氏柗よ。かきく

ぬ色を志すべし
と云はても知べし

桂楠 檣 廣心樹

桂楠 檣 廣心樹 などといふところあり

賢木サカキとして神事カンワザに用るハ榿ツカダツキなり。榿ハ天竺桂インドノモミ大多比オホタビ白多夫シロタビの總名なり。

そは真木マキハハと被檜ベキヒノキ枚スギなどの類タグヒと美樹ミキと

何れナニ名ナれど。宇万ウマンの約ヤク中に一種ヒトクサ被ベキとモ

稱ヨブハ。今イマ高野カウヤ被ベキなり。高野被カウヤベキ坂東サカエにハサナレド。北国キタクニ中国チュウゴク西国セイゴクヨ

ハハ。今イマ高野カウヤ被ベキなり。高野被カウヤベキ坂東サカエにハサナレド。北国キタクニ中国チュウゴク西国セイゴクヨ

百津ホツ真賢木マキ矣ナリ根許ネコシ士シ余コ許コ士シ而ニ於上枝オホツエ

取トリ著ツケ八尺ヤサカノタガ勾カ璉タマ之ノ五百津ホツ之ノ御須麻流ミスマユ之ノ

玉タマ於中枝ナカエ取トリ繫カケ八尺ヤサカノタガ鏡カミミラ於下枝シタエ取トリ垂シタ白丹シラ

寸手ギテ青丹アヲニ寸手ギテ而ニ此種コノクサニ物者モノハ布刀フト玉命タマノミコト

布刀フト御幣ミタマシ登取トモタシ持而テ天兒屋命アノコヤミノミコト布刀フト詔戸ノリト

言コト禱ギ白而シラシテ云ク。神代紀カムヤマトノキ上卷ウヘノマキ古語拾遺コゴロシユイ同説ドウセツ。神代紀カムヤマトノキハ五

と云イハレ。五百津ホツハ枝エの繁シガと云イハレ。湯津ユツ楓カエデの湯津ユツも五百津ホツの約ヤクなり。仲

哀アハレ紀キハ五百枝ホツエ賢木サカキとも云イハレ。百枝ヒャクエ楓カエデ杜樹トノキなり。多タくひヒなり。

中卷ナカマキ神武天皇カムヤマトノミコ御歌ミカに。伊知佐加紀イチサカキ

微能ミノ意富オホ祁久表キクハ云ク。神武紀カムヤマトノキ同ドウ伊知イチハ伊都イツの通音ツネナリ。嚴イツ

微能ミノ意富オホ祁久表キクハ云ク。神武紀カムヤマトノキ同ドウ伊知イチハ伊都イツの通音ツネナリ。嚴イツ

賢木嚴之御魂云
撞ハ齋ツキ イツキハ齋イミ潔キヨまよふ
神なり。そとを嚴イツの尤イソ詞イなり。

こゝと
賢木 サカキ
坂樹 サカキ
と書る
假字 カナ
なり ナ
神樹 カミキ
四万葉

と書るハ神事に用ゐる本なれど好り。神
十六。新撰 日本後紀

ハ神木の合字より○マ麻呂口と○カ麻呂ツ堅ラ魚と○鰾ニに

化^{ワク}る類なり。祀^{カミ}鏡^{ミタマ}は祀^{カミ}木^キ此^{コノ}合^{カヘ}字^ジ。神^{カミ}祀^{カミ}る^ル木^キ此^{コノ}

よりなり。
 旋鏡字ハ未
 詳まろ杜鏡字ハ
 神カミれ杜モリ子
 何る本

此心之龍眼木
享鏡和名抄。
 ハそれ形容の似たれむ借
サテニカリ

用て出るなり。名義ハ舊フルキ説セチニ榮樹サカキにて明アくも

万葉仙覺抄五の卷。靜山隨
 筆。冠辭考九の卷。古事記傳
 常葉樹の葉立るにいひ。
トコバギ
サカエタテ

ハの巻。万葉觀
の落葉別記。
中にも榲木カキノキの事々々と冠辭考
九れ卷いへ

るいうけぐ。今按○サカキ賢木ハ小香木サカキなり。

左と^サ辞^{ユトバ}に五^{イツ}の差別^{ケチン}有り小言小兩小枝小躍小^{○サ、ソゴト○サアノ○サエダ○サラドル○サ}

心オビちセバより狭ハミロ筵サタミ狭ミ畳ミとありれ帯オビちとは狭セバきなり。

左^サ根^子掘^{ユジ}左^サ根^子延^ハ小^コ菅^{スゲ}五^サ味^カ子^ヅ左^サ百^ユ合^リ佐^サ沼^ヌ

田^タち^チと^トハ^ハ底^{ソコ}の^ノ曾^ソに^ニか^カよ^ヨふ^フ左^サより^{ヨリ}深^{フカ}さに^ニい^イろ^ロ真^{マサ}

男鹿真寐佐夜中狭衣佐青狭藍々々狭

丹ニ頰ヅラフ狹サ丹ニ塗ヌリ酒サケをサケどサケハ真マなり。真マハ宇ウ万マれ約ヨク

以て物モノと美ホムる
 詞コトバ真マ木キ真マ賢サカ木キ
 ちとれ真マこれ。

早苗サナヘ 早蕨サワラビ 和左ワサ の約ツマ にて 早ハヤ ききり 香木カギ

ちうとようは神樂歌。佐加幾波乃加乎。

カ
父^ガ者^ハ之^シ美^ミとよみ。それおほもぢや、の道ぞ

〇。清正集よ。柳むのきとめうれハミ。光経集に。柳葉のかをさうり
 か〜云々。保氏柳ふ。さきさむのかをさうり〜みミ。亞槐集。一。ま

さうぞくのうもとがくもと。さく。など多くある。石葉楓
の落葉に。秋分を以て。柿ハ榎シキミのうもと云々と。まづさくを以て。説之。
小香木ハ桂カワラキ榎フナタ楠クヌス

櫛ミミちどれクサキ、香木カミキよいへで。檀。よいへる例ハたえそ

船
 景行紀の志^シ遲^ラ延^カ之^シ餓^ガ延^エ雄略記の伊都^ツ加^カ斯^シ賀^ガ
 母^モ登^トり^リの^ノお^オと^ト引^ヒけ^ケり^リも^モ證^シと^トと^トる^ルに^ニた^タら^ラん^ン。
 柱^{カワラ}の^ノカ^カハ

香^カ都^ツ良^ラハ圓^ワの畧^ワ以^テ香^カ何^ニりて圓^ワなる實^ミ結^{ナル}

本^キちれバ香^カ圓^ワ木^キと^ニりたり^ニ橡^ワも圓^ワ真^ミ子^ミれ通^ミ音^ミ

ちるべ^ニ。都^ツ夫^フ良^ラハ丸^マと^ニり古^コ語^ゴに^テ履^リ中^{チュウ}紀^キに^テ圓^ワ橡^ワの字^ジカ

此^{コノ}云^フ豆^{マメ}夫^{ソノ}雁^{ガシ}と^ニみゆ^{ミユ}粒^{リツ}を^ニ都^ツ夫^フと^ニ訓^スも^モ同^{ドウ}義^ギなり。

ハ小^コ香^カちり^ニ苻^フ苞^ホ茵^{イン}ち^ニりも^モ香^カさ^ニり^ニの^ノ水^{スイ}也^ヤ然^シ

以^テ多^タ末^マハ玉^{タマ}以^テ實^ミれ圓^ワなる^ニ玉^{タマ}に^テ似^ニれ^ニる

以^テ桂^{ケイ}の都^ツ良^ラも^モ橡^ワの多^タ万^{マン}も^モ共^ニに^ニ同^{ドウ}實^ミれ^ニり

楠^{クヌキ}ハ臭^{クサ}れ^ニ本^キち^ニ橡^ワれ^ニ志^シも^モ久^ク之^ジの^ノ約^{ヤク}に^テ酒^{サケ}と^ニ久^ク之^ジ

こ^ニりも^モ久^ク左^サの通^{ツウ}音^{オン}藥^{ヤク}も^モ傾^{スリ}利^リれ^ニ切^{セツ}志^シに^テ同^{ドウ}義^ギ。

惡^{アミ}臭^ミに^テ久^ク左^サ之^シとい^フ美^{ヨキ}香^カに^テ加^カ保^ホ利^リと^ニり^ニれ^ニみ^ミ心^{シン}

以^テた^ニる^ニハ頑^{カタクナ}なり^ニ加^カも^モ久^ク左^サの^ノ切^{セツ}も^モ古^{コノ}の^ノ別^{ワカチ}なり^ニ

も^モ屎^{クソ}ハ^ニ久^ク左^サの^ノ薰^{カホリ}屋^ヤなる^ニと^ニ通^{ツウ}も^モい^フる^ニに^テも

知^チべ^ニ。下^カ学^{ガク}集^{シツ}に^テ何^{ナニ}屋^ヤの^ノ説^{セツ}も^モ載^{サイ}れ^ニる^ニに^テ兼^{ケン}輔^ボ家^カ集^{シツ}空^{クウ}徳^{トク}

国^{クニ}ゆ^ユづ^ヅの^ノ下^カ卷^{ガン}源^{ゲン}氏^シ須^ス磨^カ枕^{マク}草^{ソウ}子^シ春^{チュウ}曙^{ショ}抄^{セウ}一^{イチ}禁^{キン}秘^ヒ抄^{セウ}下^カ類^{レイ}聚^{キュ}雜^{ザク}要^{ヤウ}三^{サン}

侍^シ中^{チュウ}群^{グン}要^{ヤウ}四^シに^テみ^ミえ^エる^ニみ^ミる^ニや^ヤう^ウも^モ御^ミ薰^{カハヤ}屋^ヤ人^{ニン}

に^テ御^ミ廁^{カハヤ}は^ニ奉^{ホウ}仕^シさ^ニる^ニ女^メ官^{カン}れ^ニと^ニい^フる^ニなり^ニ。かく^ニ桂^{ケイ}木^キ犀^{セイ}楠^{ナン}

事にハおけくヲカシメ櫛ヲカシメもや用たりけん。櫛ハ久須多夫。多夫。北。白多夫。此。總名。弓

八幡ウタヒノコト謡詞ヲ。うはともや神れ記とぐに。今も道あり

まつりおとあも神ヒムロ一屋。秀室の本れとも玉れ本

れ枝ふ。こが神れ珍ヲと結ひはけて。ちもやぬる神

何そび。七日七夜フトクベグシの神れ云。とあるハ太玉串れ

さ海たり。フトクベグシ太玉串ハ玉鏡ニギハヤ和幣。ちどはけて。神なる賢本カキは。玉を

著ツクるより神ナなるより。太神宮儀式帳ヲと考て知べし。と
れど後ハ玉鏡ヲと著るよりより。延喜太神宮式ヲ。著木綿ヲ賢木。是名
太玉串あり。本居氏ヲ。手向串ヲ義といへるハ。何よりことよりにさる考にや。

日本紀竟宴歌。

玉カがーナととる玉れ本のかみむに神のひも

ろぐそねへはるかれ。此方古今榮雅抄ナ。十の詞

林采要抄ナ。六の玉傳深秘。古今三木三鳥一草

口傳。歌林撲撒拾遺。好どに引れど。今れ寫本

肥後熊本妙寺藏。モレにハ脱たり。太神宮二所神祇百

首。自注。万葉の歌とて引るハ誤なり。玉ナとて語

にきくれ心何り玉垣玉橋玉手次玉此姿玉
 ひかる児玉コノタマデちどい物れようく貴さを玉子
 たとて何めいなるなり玉銚玉匣何い玉とか
 ざりたまはるタマハシ薏苡玉タマカヅラ蔓タマちどい實れ玉子似ニする
 ゆゑなり玉柳玉簾玉藻玉ゆタマ葛クズちどは枝エダ
 葉れたるくひるよりたまみと約てみなり玉の
 緒玉ちもふ玉タマさなるちどい魂タマシ玉江玉川玉井タマエタマカハタマノイ

れどい田場タノの義よよれる地名トコロノナ拍カシハ炊葉カシキハにて上古オニニヘ
 ハコシキ氈ハに葉ハと敷シキて飯イヒと蒸ムシたるより然サいハ食物オクリモノと
 盛りモリ食物クヒモノれ上ウヘにもねはひ下シタに敷シキたるれどみ
 な拍カシハといへり延喜四時祭式上は櫛一俵なり拍九十把櫛ハヒトクハラ齋宮式ハ千櫛ササ三俵ササ
 櫛ハ播磨国所進カシハちどい膳所ハの用ユヘ今ユヘ七月ハの御細ミツナ拍カシハ厚朴オウゴン葉ハびろ拍カシハ
 玉余タマよれと荷葉ハに食物ハもさとのちなりアノカシハ音拍アノカシハ児コノ拍カシハ何ナニく拍カシハ何ナニめ拍カシハ何ナニと拍カシハちどい名
 くれなわともなりかみ葉ハかみ餅モチの類ルイにて葉

れ形ナリの四鏡カハミは似たるゆゑに名とせしめハサハシ
はもど。さには何とぞ。おも葉のばやうなるを。
明鏡のてりかゞやくよたへへ美称ヒモロギ。昨ハ神籬ミムロに
字とよみてそハ賢木サカキと立て其と神の御室と
して祭マツまハ柴室木シロギに心れると。布志フシを切て比ヒ
ふなるより。古事記傳十五の巻にみえされど。何より
に物とほく考セテし。ハ秀室城ヒムロギに比ハ秀倉ホコラの

保ホまろし。毛呂ハ室ムロに多し。城ハ堅固カタとせしめられ
ハ高タカく秀シ々堅固カタギと室屋ムロヤの心ココロや。磯城シノヒモロギ神籬と
りも堅カタき秀倉ホコラなるべし。垂仁紀の熊神籬クマヒモロギも。
熊ハ龍リウにて。小刀コタと安置コメたる秀倉ホコラよりとせゆ。
そと神社シナヘとひもろとせしめ。そこに備祭ヒナヘツり
し食物クヒモノの名にも轉ウツし。いへるなり。歌の意いふれ
どくより。た炊葉カシハなる小香實コカダマハ木の光華カミハ也。

我^ガ良^ラ加^カ良^ラ陀^ダ母^モ久^ク須^ス米^メ牟^ノ止^シ宇^ウ古^コ我^ガ乃^ノ木^キ。
 安^ア左^サ加^カ比^ヒ阿^ア左^サ陀^ダ黑^{クロ}阿^ア佐^サ太^タ牟^ム菴^ヅ黑^{クロ}都^ツ豆^バ。
 乃^ノ木^キ塩^{シホ}陀^ダ万^{マン}黑^{クロ}陀^ダ万^{マン}古^コ我^ガ比^ヒ乃^ノ木^キ多^タ都^ツ乃^ノ。
 木^キ都^ツ豆^バ乃^ノ木^キ波^ハ奈^ナ我^ガ油^{アブラ}盜^{スネト}乃^ノ木^キ如^ニ所^ニよ。
 りてさよぐふ称^{ヨブ}。大倭本草^{ナニ}物類称呼^ノ。
 三^三の倭漢三才菴會^{ハニ}本草啓蒙^卅の^のに^にん^んゆ。
 伊豆国に^コ我^ガ多^タ比^ヒも^もび^びて^ハ葉^ハ舶^{ワタリ}来^リ肉^{ニク}。

桂^{ケイ}に^ニ似^ニて^ニ末^ニ小^ニ尖^ニり^ニ表^ニ裏^ニ共^ニに^ニ色^ニは^ニや^ニあ^ニり^ニ。
 實^ミハ紫^{クマ}葛^{フシラ}の^ミ實^ミ紫^{クマ}葛^{フシラ}東^ミに^ミて^ミう^ミり^ミふ^ミ大^ミき^ミて^ミ三^ミ四^ミ五^ミ。
 顆^ツ房^{フサ}を^ナり^ナて^ナ結^ナり^ナ初^ハ青^{アライロ}色^ミ熟^コれ^ミバ^ミ濃^{ムラ}紫^{サキ}色^ミなり^ミ中^{ナカ}に^ミ。
 天^タ瓜^ツ核^サれ^サ貌^{サマ}なり^サ核^サの^サう^サり^サ門^{カド}人^{ヒト}藤^{フジ}井^イ昌^{サダ}榮^{サキ}。
 伊豆^イ三^ミ嶋^{シマ}神^{カミ}主^{ヌシ}い^イつ^ツり^リ多^タ万^{マン}乃^ノ木^キと^トハ^ハ實^ミれ^レ四^シに^ニて^テ玉^{タマ}。
 に^ニ似^ニたる^ニゆ^ニゑ^ニの^ニ名^ニを^ニ陀^ダ母^モ多^タ夫^フ多^タ菩^ボハ^ハ通^{ツウ}音^{オン}に^ニ。
 久^ク須^ス陀^ダ毛^モハ^ハ香^{クサ}玉^{タマ}に^ニて^テ香^{クサ}に^ニなり^リ玉^{タマ}久^ク左^サ。

玉我良加良陀毛タマガ ラカ ラダモなぐともむねうへなる名なりナ古コ

我多比も小香玉ガ タビ モ コカダマの通音にて古と小と無ふコ フ

余已オノレスデは佐野渡サノワタリに注釋宗碩法師紀行。みにいひミ

又此木ヒトクサの一種は葉末尖らば裏に白毛シロキケゆりて實ミ

胡頹子ハシロタミなりりれるが。十顆或ハ二三十顆附合ツキアヒて結ナ

り。初ハジメハ青色熟アラク。ミノまば赤アカとのなり。白陀母シロダモ白多夫シロダブ

裏白都豆乃木油木ウラジロ。ツバノキ。アブラノキ。ス便伊ベイ。シロツバノキ白都豆シロツバノキ手支テシ

乃三乃木阿加多比ノミノキ。アカダビなぐとも手支乃三乃木テシノミノキとみ

小香フカの實ミは木の心キ。阿加多比アカダビハ赤玉アカタマの通音にて實ミは赤アカ

ければシロダモ白陀母シロダブ白多夫シロツバノキ裏白ウラジロなぐとも葉裏ハウラの白色シロキに

よれる名ナ。又大多比オホタビとて葉ハいとねほウラる裏

小白コシロくコて古我多比ガタビよりも大なる實ミ二顆許フタツバカリ

房フサとなりて結ナり。初ハジメ青色アラク。ミノ後コキ濃紫色ムラサキなるの

なり。古我多比コガタビより下品オトリ。シロダブ白多夫シロダブよりハ上品メサレルなり。

藤井昌栄いり。大多比といふ葉も實も大れ
 るによれる名^ナ。かく一種^{ヒトクサ}にて形状^{カタチ}異なるは。松に
 男松^{クロマツ}女松^{アカマツ}姫松^{ヒノマツ}榲^{マツノカシ}白榲^{シラカシ}赤榲^{アカカシ}などいふるがや
 一^{カッラ}挂^カと和名抄^{ワナシ}。兼名苑云^ニ。楓一名^{ハセツ}攝^{セツ}和名
 乎^ヲ加豆良^{カヅラ}云^ニ。兼名苑云^ニ。挂一名^{ハシ}榎^シ和
 名女^メ加豆良^{カヅラ}云^ニ。字鏡^ハに。椿^ハ加豆良^{カヅラ}云^ニ。椿^ハ
 名女^メ加豆良^{カヅラ}云^ニ。字鏡^ハに。椿^ハ加豆良^{カヅラ}云^ニ。椿^ハ
 合字^ニ。本草倭名に。楓樹一名^ハ榎^{セツ}一名^ハ格^カ柜^{キョ}。

已上出^ニ兼名苑^ニ和名加都良^{カヅラ}云^ニ。古事記^ニ上
 に^ニ鳴女^{ナギメ}自天^{ヨリ}降到^{クダリテ}居天^{サマ}若日子^{ワカヒコ}之門^{ノカド}湯津^{ユヅ}
 楓上^{カッラノウヘニ}云^ニ。神代紀上卷^ニは湯津^{ユヅ}杜木^{カッラノスエ}之抄^ニ云^ニ。杜木^ニ此云^ニ可^ニ
 推神^{ミコ}の火遠理命^{ホヲリノミコト}は教^{ヲシ}てい^ニるに^ニ其綿津見^{シユハワツミ}
 神之宮^{カミノミヤ}者也^ニ。到其^ニ神御門^{カドニ}者^ニ傍之^{カタヘノ}井上^{ノウヘニ}有^ニ
 湯津^{ユヅ}香木^{カッラノキ}云^ニ。訓^ニ香木^ニ云^ニ。加都良^{カヅラ}云^ニ。即登^ニ其^ニ
 香木^{カッラノキニ}以坐^ニ云^ニ。神代紀下卷^ニは井上^ニ有一^ニ湯
 津杜樹^ニ枝葉^ニ扶疏^ニと書^ニたり。万葉集^ニ卷^ニ七^ニの^ニに。

向岡之若楓木下枝取花待伊問尔嘆鶴
鴨源氏物語花散里に。かほれ木の追風。
まづりあそりおぼしでられやう。少女に。
ものほおほのそれけし心りよげれるに。
前齋院もほそぐとわが免たもふ。おまへなる
かほのそ風。まづりしふはけても云。藤
袴に。月のあそり。あつたの。かげよりくれても

一。ほり云。枕草紙本といへる条。
ほり云。舊本今昔物語。廿四卷。震且僧長秀来
朝被仕醫師語に。西ノ洞院トニ。ノ宮ト
申ス人御ヌ。其宮ノ前ニ大キナル桂ノ木ノ有
ケレバ桂ノ宮トゾ人云ケル長秀其宮ニ参テ物
申シ居ル程ニ此ノ桂ノ木ヲ見上テ云ク。桂心ト云
フ藥ハ此國ニモ候ケルヲ。人ノ否不見知ズコソ

候ケレ。彼レ取り候ハムトテ。童子ヲ木ニ登セテ。
然レモノ枝ヲ切下セト云ヘハ。童子登テ。長秀ガ云
ニ隨テ切下シタルヲ。長秀寄テ刀ヲ以テ。桂心有所切取
テ宮ニ来ケリ。少シヲ申給ハリテ。藥ニ仕ケルニ。唐ノ桂心ニ
ハ増テ賢カリケレバ。長秀ガ云ケルハ。桂心此国ニモ有ケル物ヲ。見
知ル醫師ノ無カリケル事極テ口惜キ事也ト云。然レバ桂心ハ
此国ニモ有ケルヲ。見知レル人ノ无クテ。不取ナルベシ云々。

下學集。草木。小木犀桂也云々。なほと物なれり。み
こして。此中に桂と云。女加豆良木犀と云。加
豆良。ともけいてい。桂ハ實を結べとも女はたへ
木犀ハ花乃と咲て實をさゆゑに男よと云
し。ちよとべ。い。賀茂祭ハ。木の木犀なる
と。中。は。う。り。や。う。り。て。白楊の類ハ木と云れど。
あ。も。う。り。も。れ。く。さ。う。風。な。う。う。い。の。あ。い。ん。

狭衣、三の上巻よ。そゝひもあつてはきき谷よりせいでたる本もの裾のてけぐら
 に。うちものうにけるけし枝ぎなどうとゆへにちるよ。ふーうてうりあさ
 せはつるさ。たよふさうふささまあはれあもやあふふのさうてやさぬ。あ
 るも香たさき小き美の結本とつまや。梓葉抄よ。契山ふらむをぶささきのゆがもた
 かけてもあつた時のささき。とさうさ。太玉串に用けんともおもさるれば。後
 にもささきハ栲本とつとあつるハ。狭衣のあつたひがあつたあやうさ。べー。
 古今集抄十の巻にも ダイジャウエ 又大嘗會に用る サカキ 柗と玉串といふも オサカキ 柗ハ
 うけられぬといふ。又 イカワラ 例の襪にもはれ オラカツラ 本犀にもあれ クス 楠ともはれ シヤミ 櫛にもあ
 る トキ 常葉にて カハシ 香き木といへど。そが中あささ
 に玉串にハ タマクシ 丹陽木と用るゆゑの柗ともさへ。

俊頼朝臣の祓宮内侍よりひくくして伊勢にゆりける時。六条修理大夫ノスリノダイブよりくくするなり。

とうぐれむくの葉にみづれて 鶉モズの茅ぐと
 めづあゝびと。みづれはたかくハ水隠ミガクレの心よいへど。そハ深隠ミガクレなるべ。草ぐ
タサケリ
草替えて。草中こもり。恵み。神代毛上。シナエタ。

一子なりともみゆ。めづる目にみやる間の^{ホト}とまで。和泉式部集にも。
なぐむれどめぢにも妻のまねれを心やりたる月とぞにみど。ととよめり。とよめるも。

散木集九。倭古今雜下。奥
義抄下。袖中抄一。同十四。

太玉串フトタウグシにサカキ柿カキの葉ハにオモス鴟カサガクレの草カサガクレ隱

せーやうふ深ミぐくれでもれず。そねより見ねこふと

よめるも神宮にりてもやと玉くし本にそヲカミ權なる

るべし。下總國香取郡神崎神社。ナンジヤモン。

ジャとふ本何^り。
何^ニぞや物^{モノ}ぞや
れ訛^{アヤ}なり。
これも檻^{ヲカケ}の一種^ニ。
もう日

向國高千穂峯にとふいもの本とふいもの何う。伊勢

丹波などにも有りといふ。

○閑田耕筆三は薩摩方鬼界島屋久の島瓦子島に
内にとくまの一本といふのそと。その屋久島よ

りたりもの律国難おの吉田氏秘蔵と云ハ紫瓣黄葉。
實ハ橋柚ミれ新と云ん。是往古よりを挾ハ歟と云と。トコ
常葉ハ此香木にて。

赤實房アカキミとフサセバ○ラカダテ小香玉ナとナ名ナおへるハム庵

ちれど。さる少^これをゆとり歩て。神事にも

ちよへくもろく孫バ。文^グ須^ス多^タ夫^ブ大^{オホ}多^タ比^ヒ白^{シロ}多^タ夫^ブれ。

ともべりヲカダメ榼といへると疑ウタガハべく○タカ高千穂ホのまゝ

玉に木ハ。かゝる国力クワシツユ廣心樹れり。岩崎氏セキ説なり。

廣心樹ハ本草綱目クワウシシジュの卷卅四香木部モクラン木蘭クタリ此条にく

もうくゝいたれど。不_レ結_ミ實_ミと_レ合_ア比_ハ。それ_〇も倭

漢風土りもれば。江南の橘江北に移せむ。枳とある類多にや。倭訓栞五のにも石楠草の類なるべしといへり。もつ今世神事に用ゐるものなり。和名抄に於漢語抄云比佐加木といふものなり。また三種あり。一種ハ上品にて葉もはやくなり。それ狀水木犀サテモツコクに似て細實結り。初ハ青色熟せばクロキイロ黒色なり。武蔵国にて左加木とも山左加木ともいふ

一種ハ下品なり。俗に比左加木とも比左木ともいふ。西國にてハ小葉といふ。大倭本草十二の巻にいつり。その灰汁を取て布とを染るは黄色なり。和名抄漆色具に於灰なり。もつ一種比左木とて叢生小樹なり。葉比左加木サカキよりも厚く嫩葉は色鮮紅にて火に焼く。三種共ハ形狀相似るべし。香氣をければ真の賢木キと別て。比賢木とはいふものなり。比ハ疎芳

心いそ曾祖父と比ヒく知チく。曾孫と比ヒく古コ孫
 枝孫生と比ヒく古コ枝比ヒく古コ波江ハエ。根と比ヒく豆マメ知チく。
 いも此コノうねるべし。上野は刀タ祢ネ川カハ。比ヒ刀タ祢ネ川カハ
 信濃に田井比ヒ田井タヰ河カハ。これも真マコトの刀タ祢ネ川カハ田井。
 より芳オトもつる方に比ヒの字とをうがうせいへる。
 比ヒ奈ナ津ツ女メ比ヒ奈ナ乃ノ國クニも都ミヤコ人ヒト都ミヤコ所トコロはむくを
 て芳オトリ比ヒ鄙イヤシキ女メ鄙イヤシキ土ツチといへり。枕詞はあまのさかひのひめとい
 い。天上は離ハナレれてみゆる日と

けけーは。奥離ウツリ里放サトナカあまの義ねを。神功紀は天疎テンソ向津ムカツ媛命ミコトとい
 るも。天は離ハナレりてみゆる日神の事。さうハ離ハナレるをいへて神代紀上は顧野
 之ガノリ間マといへる。見るが中に時刻の移るさうさけみるハ打離ウチナレれてさうさけハ離
 るといへる。といはざるハ遠く離る。冠辞考は天さる比奈の説はうけがさ
 けもハ比ヒ左サ加カ木キハ真マコト神ノサカキハ似ニたれど。香カ氣キもた
 芳オトリの本キちれむその名をへりともみゆ。

